

2023年度 文学部聴講生

講義要項

(教育学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2023.4 - 2024.3

目次

科目No	専攻	漢字科目名	教員氏名	学期名称	曜日名称	時限名称	ページ番号
E5101	教育学	教育哲学	下司 晶	後期	月	4時限	3
E5102	教育学	教育史	高木 雅史	前期	火	5時限	6
E5103	教育学	教育行政学	池田 賢市	前期	月	5時限	8
E5104	教育学	教育社会学	間山 広朗	前期	木	3時限	10
E5105	教育学	教育方法学	濱谷 佳奈	前期	木	2時限	12
E5106	教育学	生涯教育論	丹間 康仁	前期	金	3時限	15
E5107	教育学	発達教育学	下司 晶	前期	月	4時限	17
E5108	教育学	比較教育社会史	高木 雅史	後期	火	5時限	20
E5109	教育学	教育制度学	池田 賢市	後期	月	5時限	22
E5110	教育学	多文化教育学	丸山 英樹	前期	火	2時限	25
E5111	教育学	キャリア教育論	岩脇 千裕	後期	火	4時限	28
E5112	教育学	社会教育概論（1）	秦 範子	前期	火	4時限	30
E5113	教育学	社会教育概論（2）	岩松 真紀	後期	水	2時限	32
E5114	教育学	教育思想史	青柳 宏幸	後期	金	2時限	34
E5115	教育学	教育課程論	濱谷 佳奈	後期	木	2時限	36
E5116	教育学	特別支援教育論	内藤 千尋	前期	月	1時限	38
E5117	教育学	教育法	葛西 耕介	後期	月	2時限	40
E5118	教育学	国際比較教育学	島埜内 恵	前期	金	2時限	43
E5119	教育学	教育学特講（1）	岡 健	前期	月	5時限	46
E5120	教育学	教育学特講（2）	森 一平	前期	金	2時限	48
E5121	教育学	教育学特講（3）	井上 慧真	前期	金	1時限	50
E5122	教育学	教育学特講（4）	堀川 修平	後期	月	2時限	53

科目名： 教育哲学**担当教員： 下司 晶**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 月4

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-ED1-N201

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:42:38 更新者：AA2130

更新日時：2023-01-01 15:41:52

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業は、教育という営みに哲学的にアプローチする。そのため、近代教育思想とポストモダン思想を対比させて、教育の肯定的側面と否定的側面を、複数の視点から考える。

私たちは現代の教育を自明のものだと考えている。しかし「教育とは何か」を問いなすことによって、教育という「謎」の扉を開き、その深淵を垣間見る手がかりとしたい。

科目目的

近代教育思想や、ポストモダン思想の基礎を理解した上で、教育哲学的思考を試みる。

到達目標

教育を考える際の一つの選択肢として、教育哲学を用いることが出来るようになる。

授業計画と内容

授業計画と内容

- 第1回 インTRODクシヨン—教育を哲学するとは？
- 第2回 「教育とは何か」という問い
- 第3回 教育はカマラを幸せにしたか
- 第4回 アリエス (1) 〈子ども〉の誕生
- 第5回 アリエス (2) 子どもはもういない？
- 第6回 イリイチ (1) 脱学校の社会
- 第7回 イリイチ (2) 価値の制度化としての学校
- 第8回 フーコー (1) 従順な身体と、その日本への導入
- 第9回 フーコー (2) パノプティコン
- 第10回 「大きな物語」としての近代教育
- 第11回 理念としての近代——近代教育原則
- 第12回 「近代教育学」の形成と戦後日本の教育学
- 第13回 教育の再発見
- 第14回 まとめ——教育哲学の試運転

ただし、受講者の状況や要望を踏まえて順序や内容を変更することがある。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	50% 教育を深く思考できているかどうか。
平常点	50% 教育を深く思考できているかどうか。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

授業の進行によって、上記の評価の割合は変更される可能性がある。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト (授業・レポートで使用する)
下司 晶 『教育思想のポストモダン——戦後教育学を超えて』 勁草書房, 2016年.
その他、授業で配布する。

参考文献
現代思想に関する基礎知識を得られる入門書が手元にあった方がよい。
別の本でもよいが、一例として、斎藤 哲也 『試験に出る現代思想』 NHK出版新, 2022年
その他、授業で提示する。

オフィスアワー

その他特記事項

受講生の興味や理解度に応じて、内容の重点の置き方、順序等を変更する場合がある。

参考URL

科目名：教育史**担当教員：高木 雅史**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：火5

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-ED1-N202

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:42:38 更新者：AA1338

更新日時：2022-12-28 16:45:17

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、近代日本における学校教育の普及・拡大（特に就学率・進学率の上昇等にみられる量的拡大）の様相を踏まえたうえで、時期区分毎の質的変容の歴史的経過をたどる（必要に応じて近世も扱う）。学校教育の普及・拡大の様相は家族や地域社会（都市・農村）のあり方の変化とも大きく関係しており、それらの相互関連に留意しながら検討する。全体を通して、現代日本の教育のありようを歴史的視点から浮かびあがらせ、今後の方向性を描き出したい。

科目目的

この授業は、近代日本における学校教育の普及・拡大の様相を理解し、今日の教育状況を分析するにあたって歴史的視点を踏まえて考察できるようにすることを目的としている。

到達目標

今日の学校・家庭・地域における教育状況について、それらが関わり合いながら進展してきた様相を歴史的経緯を踏まえて説明できるようにすること。

授業計画と内容

- 1 授業の目標と進め方について
- 2 1870～1880年代(1)：近代学校教育の誕生
- 3 1870～1880年代(2)：近世教育からの変化
- 4 1890年代：天皇制教育体制の確立
- 5 1900～1910年代前半：天皇制教育体制の展開
- 6 1910年代後半～20年代(1)：都市新中間層・農村・都市スラムの子ども
- 7 1910年代後半～20年代(2)：大正自由教育の興隆と展開
- 8 1930～40年代前半(1)：戦時体制下の学校と子ども
- 9 1930～40年代前半(2)：総力戦と教育
- 10 1940年代後半～50年代(1)：戦後教育の出発
- 11 1940年代後半～50年代(2)：戦後における新教育の実践
- 12 1960～70年代前半：高度経済成長の開始と教育の量的拡大
- 13 1970年代後半～90年代：高度経済成長後の「教育問題」への関心の高まり
- 14 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	75%	設定した問題について、授業内容を踏まえたうえで論理的に説明できるか。
レポート	0%	
平常点	25%	毎回のリアクションペーパーあるいはミニ課題に基づいて評価する。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

〈テキスト〉：片桐芳雄・木村元編著『教育から見る日本の社会と歴史（第2版）』八千代出版、2017年3月、2,400円（+税）
〔ISBN：978-4-8429-1698-9〕

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 教育行政学**担当教員： 池田 賢市**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 月5

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-ED1-N203

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:42:38 更新者：AA0532

更新日時：2023-01-10 14:57:25

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

教育行政の理解は、教育に関する法律の理解が前提となる。この授業では、教育基本法や学校教育法等の法令の内容を、具体的な事例と結び付けながら学習していく。
4回程度、その授業時間内で書ける程度のテーマを出すので、それに簡単でよいので応えてもらう予定。その課題内容については、その都度支持する。また、授業時間内で2～3回、法令の内容理解についての確認テスト(10分程度でできるもの)を実施する予定。

科目目的

教育への権利は人間にとって基本的人権であることを理解し、その観点から具体的な教育課題をみていくことができること、また、学校を中心とした教育に関する行政について、印象論で語るのではなく、それが法令に基づいていることを理解していくことを目的とする。

到達目標

教育に関するさまざまな制度の存在意義やその問題点を、具体的な法令をあげながら説明できることを目指す。

授業計画と内容

- 1 インTRODakション/テキスト紹介
- 2 義務教育制度の歴史および憲法・教育基本法の意義
- 3 教育に関する国際条約の意義
- 4 義務・無償・中立の意義
- 5 義務教育の機会均等の考え方について
- 6 教育の政治的中立性および教科書行政について
- 7 公務員としての教員の地位
- 8 児童生徒の懲戒等について
- 9 保健・健康に関する規定
- 10 障害児の教育権と教育行政
- 11 外国人児童生徒の教育保障
- 12 インクルーシブ教育の課題
- 13 諸外国の教育行政・政策
- 14 日本の教育改革の動向とまとめ
(なお、現実の教育改革の動き等によっては、順番を変更する可能性もある。)

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業では毎回、教育に関する具体的な法令を解説していく。扱う法令(条文)については、事前にmanabaで指示するので、当日の授業時間までに、必ず調べ、その条文を見ながら授業が受けられる状態にしておくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 30% 法令の理解度について2～3回の確認テストを行う。

期末試験 40% 教育行政・制度の特徴を根拠づけている法令等を正しく指摘できるかどうか、期末試験を行う。

レポート	0%	
平常点	30%	4回程度、授業内容に関連したテーマを設定するので、それについての自分の考え等を書いてもらう。その提出状況と内容を評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストおよび参考文献については、授業中に紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 教育社会学

担当教員: 間山 広朗

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 木3

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-ED1-N204

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:42:38 更新者: gakubuadmin 更新日時: 2023-03-13 19:28:38

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

「教育」は、学校を初めとして、みなさんにとって身近な事柄です。しかしながら、当たり前である分、教育の果たす役割や影響を客観的に理解することは難しいものです。この授業では、子どもの成長や発達の過程に即して、社会（親子関係や仲間集団など）の中に生じる今日の教育の姿を具体的に読み取っていきます。

科目目的

「教育社会学」という学問の入り口となる基礎的基本的な学習を行う

到達目標

教育社会学の基礎知識を持てるように、キーワードや自己学習などを重視した内容を提示する。

授業計画と内容

- 授業の展開
- 第1回 イントロダクション: 問題としての「子ども」
 - 第2回 揺らぐ子ども観 (社会化論 2-4回)
 - 第3回 変化する子どもの生活世界
 - 第4回 子どもの社会的形成と他者の存在
 - 第5回 母親になるということ (家族論 5-8回)
 - 第6回 父親であることの困難
 - 第7回 教育戦略に奔走する家族
 - 第8回 病める家族の実像
 - 第9回 変質する若者のリアル感覚 (若者論 9-12回)
 - 第10回 島宇宙の中の少女文化
 - 第11回 ひきこもる若者と居場所
 - 第12回 稚拙化する現代の非行少年
 - 第13回 「生きづらさ」をこえて (まとめ、補章)
 - 第14回 理解度の確認

毎回授業テーマに即したプリントの配布やネット教材の視聴を用いて、教育の実態に関する理解が深まるように講義をすすめます。授業終了後に、感想 (リアクションペーパー) を記入してもらい、質問や意見を聴取し、授業に適宜活用します。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期 (前期または後期) または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期 (前期または後期) で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0% なし
- 期末試験 40% 最終回のキーワードテスト
- レポート 25% 随時の課題レポートの提出
- 平常点 35% 出席と感想 (リアクションペーパー)

その他 0% なし

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 - ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
 - グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
 - 実習、フィールドワーク
- その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
 - タブレット端末
- その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

(参考文献)
古賀正義ほか、編著『ひきこもりと家族の社会学』世界思想社、2018年、
古賀正義ほか編『現代社会の児童生徒指導』放送大学振興会、2017年
古賀正義「学校と子ども若者支援」(稲垣・内田編『教育社会学のフロンティア2 変容する社会と教育のゆくえ』) 岩波書店、2018年
などを授業で使用する。ほか、適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

特になし

参考URL

備考

科目名：教育方法学

担当教員：濱谷 佳奈

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：木2

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-ED1-N205

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:42:39 更新者：AA2232

更新日時：2023-01-08 15:22:02

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本授業の前半では、教育方法の歴史的展開について、近代社会成立以降の欧米および日本における理論と実践を中心に検討する。後半では、教育方法学の今日的課題について、非認知能力と学習、インクルーシブ教育、学力格差の是正等の各側面から考察したうえで、探究的な学習活動のプランニングを行い、作品発表と相互検討をおこなう。

科目目的

本科目は、教育方法学に関する基礎的理解を深めることによって、教えることと学ぶことへの問いをめぐり理論的かつ実践的な考察を行うことを目的とする。とりわけ、実際に探究的な学習活動のプランニングを行うことを通して、学習を支援する主体としての資質について検討する。

到達目標

1. 教育方法の歴史的展開を検討することによって、教育方法の基礎的概念を理解することができる。
2. 現代の教育方法をめぐる諸課題について問いをたて、多角的に検討することができる。
3. 探究的な学習活動のプランニングを通して、どうすれば質の高い学びを保障できるのかについて理解を深めることができる。

授業計画と内容

- 第1回：オリエンテーションー本授業のねらいと概要ー
- 第2回：授業の歴史1ーヨーロッパー
- 第3回：授業の歴史2ー日本ー
- 第4回：子ども観の歴史的変遷と教育方法
- 第5回：教えることと学ぶこと
- 第6回：非認知能力と学習
- 第7回：思考力・判断力・表現力の育成
- 第8回：教師に求められる力量
- 第9回：インクルーシブ教育の現状と課題
- 第10回：学力格差是正の取り組み
- 第11回：探究的な学習活動の意義と課題
- 第12回：探究的な学習活動のプランニング
- 第13回：探究的な学習活動プランの相互検討
- 第14回：総括ー教授学の新たなモデルをめぐって

【注意】

テーマの順番を入れ替える可能性があります。また、ひとつのテーマを複数回かけて行う場合があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・ 毎回リアクション・ペーパーの提出が必要となる。
- ・ 探究的な学習活動のプランニングにおいては、授業時間外の学修が必要となる。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・ 毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・ 毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	30%	指定されたテーマについて最終レポートを提出する。テーマの理解ができているか。自己の考察の表現ができているか。資料を丁寧に読み取れているかを基準とする。 ※manabaにてデータ提出する。
平常点	30%	毎回のリアクション・ペーパーおよび授業での発表・ディスカッションへの参加を評価する。
その他	40%	課題に基づいて「教材」「授業プラン」などの作品を作成する。制作物は、レポートとして提出するほか、授業で発表する。構想・制作・実演の丁寧さ、完成度、オリジナリティを評価する。 ※manabaにてデータ提出する。

成績評価の方法・基準(備考)

- ・ すべての課題の評価を合計して60点以上が合格となります。ただし、「レポート」「平常点」「その他」の項目で、いずれか1つでも0点があった場合は、不合格となります。欠席回数が5回以上の場合は平常点が0点となります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを用いる。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

特に指定しない。プリントを適宜配布する。

【参考文献】

- ・ 奈須正裕 編著『ポスト・コロナショックの授業づくり』東洋館出版社、2020年。
- ・ 志水 宏吉 監修、ハヤシザキ カズヒコ・園山 大祐・Sim Choon Kiat 編著『世界のしんどい学校：東アジアとヨーロッパにみる学力格差是正の取り組み（シリーズ・学力格差 第4巻 国際編）』明石書店、2019年。
- ・ ヒルベルト・マイヤー 著、原田信之 編訳『授業方法・技術と実践理念—授業構造の解明のために』北大路書房、2004年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：生涯教育論**担当教員：丹間 康仁**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：金3

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-ED1-N206

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:42:39 更新者：AD0079

更新日時：2023-01-11 11:16:52

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、生涯学習と社会教育の本質を踏まえて、社会とかかわる学びのありようについて学修する。個人の趣味・教養に限らず、地域、福祉、労働、子育てにかかわる幅広い学習の実践を捉える。生涯学習と社会教育の歴史、理論、政策、法制の観点にもとづき生涯教育論について講義する。個人の自助努力のみでは解決しえない生活課題や地域課題がからみあう現代における生涯教育論の意義について議論する。

科目目的

生涯教育をめぐる理論的枠組みを理解し、歴史、政策、実践の展開について見識を広げる。

到達目標

- ①人間の学習と教育の営みを、生涯にわたって捉える枠組みを獲得する。
- ②生涯学習と社会教育の意義を基礎的な理論に基づいて適切に説明できる。
- ③生涯学習と社会教育について、自らの理解を論理的に表現することができる。

授業計画と内容

- 第1回学校教育の相対化と生涯学習への視野（導入）
- 第2回学びなおし・学びほぐしと成人教育論
- 第3回日本における生涯学習政策の動向と課題
- 第4回地域づくりに果たす社会教育施設の役割
- 第5回市民の生涯学習を支える公民館の取組
- 第6回市民の生涯学習を支える図書館の取組
- 第7回市民の生涯学習を支える博物館の取組
- 第8回市民のソーシャル・キャピタルと環境醸成
- 第9回学校・家庭・地域の連携・協働と学びあい
- 第10回地域文化の創造と継承と市民の学習
- 第11回子どもの貧困問題と市民活動
- 第12回非営利セクターによる社会課題の解決
- 第13回コミュニティにおける対話と学習環境デザイン
- 第14回生涯学習の自由・主体性と教育（到達度確認）

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ①教科書の指定した章を、次の回までに読んで、内容を理解したうえで授業に参加する。授業冒頭では、グループに分かれたうえで、クイズを用いて理解度を確かめ合う。
- ②指定した期間内に、身近な地域における社会教育施設を訪問して見学を実施する。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 50% ・授業の到達目標に基づき、筆記試験として実施する。筆記試験には指定の教科書のみ持ち込み可（ただし、紙媒体に限る。電子書籍版は持ち込み不可）。

レポート	0%	
平常点	0%	
その他	50%	<ul style="list-style-type: none"> ・各回授業でのクイズやふりかえりの得点 (manabaより提出) : 30% ・社会教育施設の見学への参画 (同上) : 10% ・ディスカッションへの貢献 : 10%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- ✓ 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを通じての課題の提示を行います。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

次のテキスト (指定の教科書) を、第2回講義までに準備すること。
 ◎荻野亮吾・丹間康仁編『地域教育経営論—学び続けられる地域社会のデザイナー』大学教育出版、2022年 (ISBN : 978-4-86692-223-2)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

- ①授業担当者の研究情報 (<https://researchmap.jp/tamma>)
- ②指定の教科書に関する情報 (<https://www.kyoiku.co.jp/00search/book-item.html?pk=1131>)

備考

科目名: 発達教育学

担当教員: 下司 晶

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 月4

配当年次: 2~4年次担当

科目ナンバー: LE-ED2-N301

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:42:39 更新者: AA2130

更新日時: 2022-12-25 14:59:00

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本講義では、フロイトと精神分析の観点から発達と教育を考える。
私たちは教育を「教える-学ぶ」という視点から捉えがちである。しかし、教育や人間形成という営みは、それにはおさまりにくい広がりを持つ。そうした理解を体感してほしい。

科目目的

教育や人間形成の基礎理論を用いて思考が出来るようになる。

到達目標

フロイト派の精神分析理論をはじめとする、心の理解に関する理論を用いて思考が出来るようになること。
例えば、実際の教育だけでなく、小説や映画、アニメなどを発達や人間形成という観点から「深読み」出来るようになること。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション-発達から教育を考えるとは
- 第2回 なぜフロイトを読むのか
- 第3回 ト라우マとPTSD
- 第4回 フロイト思想の全体像(概観)
- 第5回 エディプス・コンプレックス
- 第6回 メタサイコロジーとその変遷
- 第7回 転移性の愛
- 第8回 ナルシシズム
- 第9回 集団心理学と自我の分析
- 第10回 不気味なもの
- 第11回 ヤマアラシのジレンマ
- 第12回 快感原則とその悲願
- 第13回 未解決の問題としての教育
- 第14回 フロイトと教育(まとめ)

ただし、受講生の反応を見ながら、順序や内容を変更することがある。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

遠隔授業となった場合、上記課題に加えて、映画等の映像資料をネット配信等によって視聴してもらう。その際、多少の金銭的負担が生じる場合がある。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	50% 人間形成に関する理論が理解できているかどうか。
平常点	50% 課題にきちんと取り組んでいるかどうか。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト (授業・レポートで用いる)
デボラ・P・ブリッツマン『フロイトと教育』下司 晶・須川公央(監訳)、勁草書房、2022年

参考文献 (上記理解の手がかりに)
小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』(講談社現代新書) 講談社、2002年
(他の本でもよい。フロイトと精神分析に関する知識がある程度あれば不要。)

オフィスアワー

その他特記事項

- ①対面式授業が可能であれば、授業内で映像資料を用いる。しかし遠隔授業となった場合、これらの映像資料をネット配信等によって視聴してもらう必要がある。その際、多少の金銭的負担が生じる場合がある。
- ②受講生の興味や理解度に応じて、毎回の内容や重点の置き方、順序などを変更する場合がある。

参考URL

備考

科目名： 比較教育社会史**担当教員： 高木 雅史**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 火5

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N302

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:42:39 更新者：AA1338

更新日時：2022-12-28 16:47:34

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

教育という営みは、政治・経済・社会の幅広い領域にわたる社会事象と密接に結びついて成り立っている。よって、現代日本の教育のありようを理解するためには、さまざまな社会事象との関係に着目し、歴史的・社会的文脈のなかに位置づけて検討することが必要となる。この授業では、〈学歴主義の制度化と展開〉〈近代家族の誕生と変容〉〈生命科学の成立と進展〉という3つの社会的事象と教育との関係性について各々の歴史的変遷をたどり、適宜、諸外国と比較しながら、近代以降における日本の教育の特質を浮き彫りにしたい。

科目目的

この授業は、〈学歴主義の制度化と展開〉〈近代家族の誕生と変容〉〈生命科学の成立と進展〉という3つの社会的事象に関する考察を踏まえて、近代以降における教育の特質の歴史的変化を、広い視野から理解できるようになることを目的としている。

到達目標

〈学歴主義の制度化と展開〉〈近代家族の誕生と変容〉〈生命科学の成立と進展〉という3つの社会的事象に関する歴史的経緯を理解し、その相互関連を踏まえつつ、今後のあり方を展望できるようになること。

授業計画と内容

- 1 授業の目標と進め方について
- 2 学歴主義の制度化と展開(1)：学歴主義の歴史①戦前
- 3 学歴主義の制度化と展開(2)：学歴主義の歴史②戦後
- 4 学歴主義の制度化と展開(3)：学歴主義の現状
- 5 学歴主義の制度化と展開(4)：現代における大学教育の有効性
- 6 学歴主義の制度化と展開(5)：フリーター・ニート対策（日本とイギリス）
- 7 近代家族の誕生と変容(1)：少子化の歴史的変遷と現状
- 8 近代家族の誕生と変容(2)：家族－学校関係の社会史①高度経済成長以前
- 9 近代家族の誕生と変容(3)：家族－学校関係の社会史②高度経済成長以後
- 10 近代家族の誕生と変容(4)：就労・子育て支援（日本とデンマーク・フランス）
- 11 近代家族の誕生と変容(5)：「三歳児神話」の受容にみる日本の特質と課題
- 12 生命科学の成立と進展(1)：優生学の歴史と出生前診断（日本とイギリス・ドイツ）
- 13 生命科学の成立と進展(2)：生命科学の進展が教育にもたらす課題
- 14 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

- | | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 70% | 【客観問題】（穴埋め・選択肢等）：50%（試験配点中の内訳）
評価基準：基礎的用語・概念・事実を理解しているか。 |

【論述問題】：50%（試験配点中の内訳）
評価基準：設定した問題について、授業内容を踏まえたうえで論理的に説明できるか。

レポート 0%

平常点 30% 毎回のリアクションペーパーあるいはミニ課題（2回程度）に基づいて評価する。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、配信する資料に基づいて授業を行う。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 教育制度学

担当教員: 池田 賢市

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 月5

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-ED2-N303

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:42:40 更新者: AA0532

更新日時: 2023-01-06 22:48:49

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

学校制度を支えている原理および法規定について学習したうえで、今日的な制度問題について考えていく。また、国際的な教育情勢も学習の対象としていく。最終的には、自分の考える課題・問題に対応した教育改革案を提出してもらう。

科目目的

公教育制度は、教育の目的を実現するために、公の規定で定められた組織（人と物との体系的な配置）である。この講義では、この定義を踏まえ、学校教育制度に主な焦点を当て、その法制およびさまざまな教育改革(案)について検討し、権利保障としての教育制度のあり方の今日の問題を明らかにしていく。

到達目標

- ・教育法の法体系について理解し、活用することができる
- ・各教育段階の学校制度の構成要素の概要を説明することができる
- ・現在の各教育段階の学校制度の状況について、歴史的観点から説明することができる
- ・各学校が連関した学校系統の成立について歴史的に説明することができる
- ・学校体系の諸類型について歴史的に説明すると同時に、それぞれの特性を指摘することができる

授業計画と内容

- 1 教育制度の定義と考え方
- 2 学校体系(系統)構築の原理
- 3 学力をめぐる諸課題
- 4 義務教育制度の原理
- 5 義務教育制度の今日的課題
- 6 教育機会確保法の問題点
- 7 高等教育(大学等)制度の歴史と課題
- 8 学習指導要領の変遷(含. 道徳教育の教科化の課題)
- 9 入試制度をめぐる問題
- 10 特別支援教育の法制と歴史的検討及び国際比較
- 11 教員養成制度の法制と課題
- 12 日本における教育改革(案)の検討
- 13 国際条約にみる教育制度上の課題
- 14 まとめ・到達度の確認

なお、その時々々の新聞報道等、実際の教育改革の動きも授業に組み入れていくので、上記の順番は変更することもある。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験
- 期末試験

レポート

平常点

その他

” ” ” ”

”50”, ”教育制度に関する知識等、到達目標に達しているかどうかを確認する。この試験が60%の得点未満の場合には、平常点とレポートがすべて提出されていても、単位は認められない。”

”20”, ”期末に「私の教育改革案」というレポートを提出してもらおう。書き方等については授業中に指示する。”

”30”, ”課題を4回程度出すので、その提出状況と内容を評価する。なお、提出は、授業時間内を原則とするが、課題によっては一週間後の提出という場合もある。”

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: 『学びの本質を解きほぐす』(池田賢市著、新泉社、2021年刊、2000円+税)

参考文献は随時授業時間内で紹介する。なお、次のものはあらかじめ参考文献として挙げておく。

『教育の法と制度』(藤井穂高編著、ミネルヴァ書房、2018年刊、2200円+税)。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 多文化教育学**担当教員： 丸山 英樹**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 火2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N305

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:42:40 更新者：XEC332

更新日時：2023-01-08 16:30:04

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

日本語での授業であるが、用いる資料は英語のものも多く、ある程度の英語運用能力が求められる。
This class is basically in Japanese, but some materials are in English.

授業の概要

2050年の社会を想定し、多文化教育の実践例（計画）を受講生がグループで作成する。その作成を通して、人種・民族、社会階層、ジェンダー、性的指向性、障がいなどの多様な人々の文化背景について調べ、基礎的な理論を理解する。構造的に平等が達成され、集団間の共存・共生が可能となる社会をサステナビリティから捉える。

科目目的

2050年に生きる社会の中堅としての自身を受講生は想定し、教育を学校だけのものとせず、自身と他者がサステナブルに生きることができる多文化社会を具体的に想像することをめざす。実践例（計画）作成プロセスでは国内外の状況や取り組みを参考にする。

到達目標

- 受講生は、次のことができるようになる：
- 1) サステナビリティの基礎的概念を理解
 - 2) 多文化社会と人間・社会・環境のサステナビリティを接続
 - 3) 自分の考える多文化社会を文字で表現

授業計画と内容

1. 2050年の社会はどのようなになるか？私たちはサステナブルだろうか？
(各自の関心トピックを探し始める。宿題：UNESCO報告書とサステナビリティ資料)
2. UNESCO (2021) が示す課題とサステナビリティ概念
(各自のトピックを具体的に絞る。宿題：過去4年間の新聞記事から多文化に関するトピックを探す)
3. 教育の役割と多様性
(文化、学校、ノンフォーマル教育、ESD。宿題：トピックを多文化と教育で整理)
4. トピックによるグループ立ち上げ
(グループ議論。宿題：2050年の日本社会をデータで捉える)
5. 2050年におけるトピックのゆくえ
(日本社会の構造変化と教育の役割。宿題：トピックの課題点)
6. トピックの課題背景と構造（課題の構造をシステム思考で捉える）
7. 多文化教育の実践例を計画する（まずは想像力を発揮する）
8. 教育政策・学校との関係（学校教育制度から分析）
9. 出身国や地域社会との関係（人間関係・社会の課題から分析）
10. 産業との関係（産業構造の変化から分析）
11. プロトタイプ発表（他グループとの質疑応答）
12. サステナビリティの担保（持続可能か？）
13. 最終発表会（上智大学との合同もありうる）
14. 2050年の社会をバックキャストする&残された課題

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

ユネスコの報告書（UNESCO (2021). Reimagining Our Futures Together）概要（<https://bit.ly/UNESCOFuturesofEducation>）を通読しておくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	A: サステナビリティ概念を正しく使い(i)、2050年の社会で実現可能な多文化教育(ii)の計画を論理的(iii)・ユニーク(iv)に表現できている B: (i)～(iv)のいずれか1つが抜けている C: (i)～(iv)のいずれか2つが抜けている D: (i)～(iv)のいずれか3つが抜けている E: (i)～(iv)のいずれもが抜けている
平常点	50%	A: 授業に出席し(i)、グループワークで自分の役割を意識した貢献ができ(ii)、データ(iii)を用いて計画を作成・発表(iv)した B: (i)～(iv)のいずれか1つが抜けている C: (i)～(iv)のいずれか2つが抜けている D: (i)～(iv)のいずれか3つが抜けている E: (i)～(iv)のいずれもが抜けている
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

成績評価の割合で示すとおり、出席しない場合、最終レポートを提出しない場合、いずれも自動的にE判定となる。出席は第2～11回で取る予定である。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL（課題解決型学習）
- ✓ 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

受講者数によるが、オンラインツールを用いた双方向型の講義パートが含まれる。受講生はパソコン・タブレット・スマホを頻繁に用いる必要がある。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは用いないが、次の参考文献などを紹介する。

<参考文献>

1. 北村友人・佐藤真久・佐藤学編『SDGs時代の教育——すべての人に質の高い学びの機会を』学文社
2. 工藤尚悟（2022）『私たちのサステナビリティ：まもり、つくり、次世代につなげる』岩波ジュニア新書
3. 佐藤一子ら（2022）『共生への学びを拓く：SDGsとグローバルな学び』エイデル研究所

4. ドレンジソン, A.・井上有一編 (2001) 『ディープ・エコロジー——生き方から考える環境の思想』昭和堂
5. ビースタ, G. J. J. (2016) 『よい教育とはなにか——倫理・政治・民主主義』(藤井啓之・玉木博章訳) 白澤社
6. 広井良典 (2019) 『人口減少社会のデザイン』東洋経済新報社
7. プリントン, M. C. (2022) 『縛られる日本人——人口減少をもたらす「規範」を打ち破れるか』中公新書
8. ベイトソン, G. (2000) 『精神の生態学』(佐藤良明訳) 新思索社
9. 丸山英樹・太田美幸編 (2013) 『ノンフォーマル教育の可能性：リアルな生活に根ざす教育へ』新評論
10. ラワース, K. (2018) 『ドーナツ経済学が世界を救う』(黒輪篤嗣訳) 河出書房新社
11. Blewitt, J. (2006). *The Ecology of Learning: Sustainability, Lifelong Learning and Everyday Life*, London: Routledge.
12. Gough, S. R. & Scott, W. A. H. (2008). *Higher Education and Sustainable Development: Paradox and Possibility*, London: Routledge.
13. Jickling, B. & Wals, A. E. J. (2008). Globalization and environmental education, *Journal of Curriculum Studies*, 40(1): 1-21.
14. Kaiser, A. (2018), Learning from the future meets Bateson's levels of learning, *The Learning Organization*, 25 (4): 237-247.
15. Maruyama, H. ed. (2019). *Cross-Bordering Dynamics in Education and Lifelong Learning: A Perspective from Non-Formal Education*, Routledge.
16. Maruyama, H. (2022). A Deep Transformative Dimension of ESD in Japanese University: From Experiential to Emancipatory Learning in Online and Offline Environments, *Sustainability*, 14(17), 10732.
17. Mulligan, M. (2017). *An Introduction to Sustainability*, Routledge.
18. Orr, D. (1994). *Earth in Mind: On Education, Environment, and the Human Prospect*, Island Press.
19. Ratner, B. D. (2004). Sustainability as a dialogue of values: Challenges to the sociology of development, *Sociological Inquiry*, 74(1):50-69.
20. Scott, W. A. H. & Gough, S. R. (2003). *Sustainable Development and Learning: Framing the Issues*, London: Routledge.
21. Senge, P., Scharmer, O., Jaworski, J. and Flowers, B. S. (2005), *Presence: Exploring Profound Change in People, Organizations, and Society*, NY: Random House.
22. Springett, D. (2017). Education for Sustainable Development: Challenges of a critical pedagogy, In Redclift, M. & Springett, D. eds. *Routledge International Handbook of Sustainable Development*, (pp.104-118), London: Routledge.
23. Springett, D. & Redclift, M. (2017). Sustainable Development: History and evolution of the concept, In Redclift & Springett, eds. *ibid.* (pp.1-38).
24. UNESCO (2021). *Reimagining Our Futures Together: A new social contract for education*, Paris, UNESCO.
25. Washington, H. (2015). *Demystifying Sustainability: Towards real solutions*, London: Routledge.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：キャリア教育論**担当教員：岩脇 千裕**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：火4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N306

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:42:40 更新者：XEC311

更新日時：2022-12-09 09:01:10

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、若者をとりまく社会状況や労働市場の変化と、日本におけるキャリア教育政策とを照らし合わせることで、現状のキャリア教育やキャリア形成支援の特質と課題を議論します。
 さらに、学校その他の場における実践や、関連する議論や政策的動向などについても紹介します。
 これらの議論を通して、若者が社会の一員として生きていくために必要なキャリア教育・キャリア形成支援とはなにか、再考します。
 授業計画として下記の内容を考えていますが、受講性の問題関心に対応して若干変更する場合があります。

科目目的

キャリア教育について、背景や政策、実践までを把握しつつ、その課題を理解する

到達目標

キャリア教育の背景を理解し、制度や実践を整理し、自身の考えを述べられるようになる。

授業計画と内容

- 第1回：イントロダクション “キャリア”とは何か
- 第2回：社会の変化と若者のキャリア (1) 技術の発展
- 第3回：社会の変化と若者のキャリア (2) グローバリゼーション
- 第4回：社会の変化と若者のキャリア (3) 脱工業化社会
- 第5回：日本の労働市場(1)メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用
- 第6回：日本の労働市場(2)新規学卒一括採用の歴史と課題
- 第7回：日本の労働市場(3)非正規化と初期キャリアにおける困難
- 第8回：日本におけるキャリア教育政策(1)展開と背景
- 第9回：日本におけるキャリア教育政策(2)概要と問題点
- 第10回：キャリア教育の実践 (1) 職業教育
- 第11回：キャリア教育の実践 (2) 労働者教育
- 第12回：キャリア教育の実践 (3) 移行支援から長期的キャリア形成支援へ
- 第13回：キャリア教育の実践 (4) 自己分析と長期的ライフデザイン
- 第14回：まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業中に提示した課題および授業へのコメントを提出してもらいます。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 最終レポート
平常点	60% 毎回の課題と授業へのコメント

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- ✓ 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaにて資料配布や課題提出をを求めます。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業中に提示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 社会教育概論(1)

担当教員: 秦 範子

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 火4

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-ED2-N401

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:42:41 更新者: AD0974

更新日時: 2022-12-29 22:40:02

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

生涯学習における社会教育と、社会教育行政の役割について基礎的な理解を得るとともに、さまざまな施設の特徴と施設における実践を取り上げて紹介する。

科目目的

社会教育の歴史的展開および法制・財政の点から現在の社会教育の状況を理解する

到達目標

社会教育の歴史および政策的展開を理解する。実践の背景にある制度の問題などの基礎を理解し、自身の考えを述べられるようになる。

授業計画と内容

- 第1回: ガイダンス・社会教育とは
- 第2回: 社会教育の歴史
- 第3回: 社会教育の法制度 (1)
- 第4回: 社会教育の法制度 (2)
- 第5回: 社会教育計画・行財政
- 第6回: 社会教育施設の役割と課題①公民館
- 第7回: 社会教育施設の役割と課題②図書館
- 第8回: 社会教育施設の役割と課題③博物館
- 第9回: 発達段階と学習支援 成人の学習支援を理解する
- 第10回: 社会教育の課題①生涯学習政策への転換
- 第11回: 社会教育の課題②生涯学習の中の社会教育
- 第12回: 社会教育の課題③家庭・学校との連携
- 第13回: 社会教育の課題④社会教育職員問題
- 第14回: まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

施設への訪問レポートおよび毎回の授業から課題を提示します。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	60% 最終レポートおよび施設レポート
平常点	40% 授業中の課題や授業へのコメント
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- ✓ 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業中に課題を提示し、manabaを通じて提出を行う。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

立川市の社会教育事業「たちかわ市民交流大学」の企画運営委員を務め学識者として助言を行っている。

実務経験に関連する授業内容

第5回の講義で立川市の生涯学習推進計画を例に策定プロセスについて解説を行う。

テキスト・参考文献等

授業中に提示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 社会教育概論(2)

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：水2

担当教員： 岩松 真紀

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N402

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:42:41 更新者：AD0483

更新日時：2023-01-09 17:04:36

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

多様な実践や活動の事例を通して、学校教育とは違う社会教育の、学習内容や学習過程、学習支援の方法等について学ぶ。

科目目的

基礎を学び、具体的な事例にふれることで、社会教育・生涯学習への理解を深める。教育についての幅広い見方や考え方を持つ。

到達目標

社会教育についての専門的学識と幅広い教養を併せ持つことにより、複眼的に思考し、多様な社会に柔軟に対応することができるようになる。卒業後の自らの仕事、これからの自身の社会教育活動や地域活動に、学んだことを活かすことができる力を身に付ける。

授業計画と内容

1. イントロダクション
2. 社会教育の理解 (1) 夜間中学から考える
3. 社会教育の理解 (2) 3つのとらえ方
4. 社会教育に関わる職員と施設 (1) 全般・公民館
5. 社会教育に関わる職員と施設 (2) 図書館
6. 社会教育に関わる職員と施設 (3) 博物館
7. 社会教育を取り巻く環境の変化と課題
8. 環境問題と社会教育 (1) ロールプレイで体験
9. 環境問題と社会教育 (2) 実際にはどうなのかを学ぶ
10. 地域づくりと社会教育
 - 1 1. 貧困・社会的排除と社会教育
 - 1 2. NPOと社会教育
 - 1 3. 社会教育に関わる職員と施設 (4)
 - 1 4. これまでの総括とまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	社会教育についての基礎知識を理解したうえで、自分のことばで社会教育の内実が説明できるかどうかを評価します。
平常点	50%	毎回の提出課題から授業への参加度を評価します。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

感染拡大状況によりますが、グループワークを多く行います。うち1回はロールプレイ形式とします。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- ・テキストは使用せず、授業の際にプリントなどを配布します。
- ・参考文献を示しますので、予習や復習などで活用してください。

小林繁・平川景子・片岡了編著『生涯学習概論 改訂版』、エイデル研究所、2018年
鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』「ESDでひらく未来」シリーズ、学文社、2018年
社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック第9版』、エイデル研究所、2017年

オフィスアワー

その他特記事項

資料配布等はmanabaを使用して行う予定です。またcovid-19の感染拡大状況、授業の進捗状況や受講者の興味関心により、授業計画やシラバスの順番は変更することがあります。教員への連絡はメールでお願いします。 imaki002u@g.chuo-u.ac.jp 岩松

参考URL

備考

科目名：教育思想史**担当教員：青柳 宏幸**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：金2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N403

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:42:41 更新者：AC7857

更新日時：2023-01-09 13:04:27

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

私たちの教育についての見方・考え方は必ずある特定の思想を前提としている。そしてその思想は歴史的に形成されてきたものである。教育思想史とは、教育思想の歴史的展開を探究することによって、われわれの教育についての見方・考え方を規定している思想的前提を明らかにし相対化する学問である。本年度の授業では、「学び」と「能力（コンピテンシー）」が現代の教育を特徴づけるキーワードとなっていることに注目し、その社会的背景を探る。子どもたちにこれからの変化の激しい社会を生きる能力を育てる教育が必要であり、そのためには学校を子どもたちの主体的な「学び」の場へと変えていかなくてはならない——このような見方・考え方がどのように成立してきたのか、このことを特に情報社会の展開と関わらせながら、明らかにしていく。

科目目的

教育思想史の方法について理解するとともに、現代の教育思想の歴史的基盤を相対化することができる。

到達目標

- 1) 教育思想史の意義と方法について理解している。
- 2) 現代の教育課題について教育思想史の方法で考察することができる。

授業計画と内容

- 第1回 教育思想史の目的と方法
- 第2回 「学習」から「学び」へ
- 第3回 「学習」の科学的研究の開始
- 第4回 行動主義の学習観とティーチング・マシン
- 第5回 認知革命
- 第6回 「おぼえる」と「わかる」
- 第7回 情報処理から人類学へ
- 第8回 文化的実践と参加
- 第9回 情報社会論の登場
- 第10回 情報社会論の展開
- 第12回 教育と機械
- 第13回 発達と学習
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%
- レポート 70% 学期末レポート

平常点 30% 毎授業時に提出するリアクションペーパーの内容
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

毎回、資料を配付して授業を行う。テキストは使用しない。
参考文献：佐伯胖『「わかる」ということの意味』岩波書店、1995年。
佐伯胖『「学ぶ」ということの意味』岩波書店、1995年。
奈須正裕『「資質・能力」と学びのメカニズム』東洋館出版、2017年。
教育思想史学会編『教育思想事典増補改訂版』勁草書房、2017年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 教育課程論**担当教員： 濱谷 佳奈**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：木2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N404

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:42:42 更新者：AA2232

更新日時：2023-01-08 15:41:16

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

学校における教育課程の理論、及び教育課程の一領域である「総合的な学習の時間」の実践について解説するとともに、実際に指導計画作成の演習を行う。

科目目的

学校における教育課程の意義と編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義について講義を通して理解するとともに、教育課程の一領域である「総合的な学習の時間」の指導計画作成の演習を通してカリキュラム開発の基礎的能力を養う。

到達目標

学校の教育課程意義や編成方法について理解し、「総合的な学習の時間」の指導計画が作成できるようになる。

授業計画と内容

- 第1回：オリエンテーションー教育課程とは何か
- 第2回：教育課程編成の原理
- 第3回：学習指導要領の変遷と特色ー経験主義・児童中心主義の時代
- 第4回：学習指導要領の変遷と特色ー系統主義カリキュラムからゆとりの時代へ
- 第5回：新学習指導要領と資質・能力の育成
- 第6回：非認知能力の育成
- 第7回：ポスト世俗化社会における宗教教育
- 第8回：市民性の育成
- 第9回：学校におけるカリキュラム・マネジメント
- 第10回：「総合的な学習の時間」の意義と先駆的实践
- 第11回：「総合的な学習の時間」の指導計画の作成の演習
- 第12回：作成した「総合的な学習の時間」の指導計画の発表と相互検討
- 第13回：学校教育の多様化と教育課程
- 第14回：まとめー教育課程改革と未来の学校

【注意】

テーマの順番を入れ替える可能性があります。また、ひとつのテーマを複数回かけて行う場合があります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

日ごろから国内外の教育課程に関連する新聞記事や書籍を読んでおくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	30%	指定されたテーマについて最終レポートを提出する。テーマの理解ができているか。自己の考察の表現ができているか。資料を丁寧に読み取れているかを基準とする。 ※manabaにてデータ提出する。

- 平常点 30% 毎回のリアクション・ペーパーおよび授業での発表・ディスカッションへの参加を評価する。
- その他 40% 「総合的な学習の時間」の指導計画の作成内容の完成度とオリジナリティを評価する。
※manabaにてデータ提出する。

成績評価の方法・基準(備考)

・すべての課題の評価を合計して60点以上が合格となります。ただし、「レポート」「平常点」「その他」の項目で、いずれか1つでも0点があった場合は、不合格となります。欠席回数が5回以上の場合は平常点が0点となります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
 - ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

「総合的な学習の時間」の指導計画の作成

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを用いる。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>
特に指定しない。適宜プリント資料を配布する。

<参考文献>

1. 奈須正裕・坂野慎二編著『教育課程編成論』玉川大学出版部、2019年
2. 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』東山書房、2018年

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 特別支援教育論**担当教員： 内藤 千尋**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 月1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N405

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:42:42 更新者：AD1443

更新日時：2023-01-13 22:53:11

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では、特別支援教育および特別ニーズ教育の現状と課題について、対象の理解、本人・当事者のニーズに沿った教育や支援等に関する講義を行います。本授業を通して、各種障害に限らず特別な教育的支援を必要とする子どもの教育的ニーズを把握し、教育・支援のあり方を検討します。

科目目的

特別支援教育・特別ニーズ教育に必要な障害特性等の理解・支援方法を学びます

到達目標

発達障害や特別な教育的支援を必要とする子どもと教育・支援について、基礎的な知識や当事者の支援ニーズに基づく教育・支援を理解することを目標とします。

授業計画と内容

- 1 特別の支援を必要とする子どもと特別支援教育・特別ニーズ教育【授業概要説明】
- 2 子どもの発達と障害
- 3 特別支援教育制度の変遷
- 4 障害の理解と教育① 自閉スペクトラム症
- 5 障害の理解と教育② 注意欠如多動症 (ADHD)
- 6 障害の理解と教育③ 学習障害 (LD)
- 7 障害の理解と教育④ 感覚情報統合の困難・身体症状
- 8 学校教育における特別支援教育の役割と課題① 特別支援学校・特別支援学級
- 9 学校教育における特別支援教育の役割と課題② 通級による指導・通常学級
- 10 学校教育における特別支援教育の役割と課題③ 保護者支援／教育的支援と福祉的支援の連携
- 11 特別支援教育・特別ニーズ教育に係る諸課題① 子どもの被虐待等の発達困難と支援
- 12 特別支援教育・特別ニーズ教育に係る諸課題② 子ども・若者の「非行」等の発達困難と支援
- 13 諸外国における特別支援教育・特別ニーズ教育
- 14 特別支援教育・特別ニーズ教育の課題【まとめ】

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

指定したレジメ等を事前に読み込む。授業後には復習、指示された課題に取り組む。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	80% 期末レポートの提出と内容
平常点	20% 授業への参加・受講態度

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特に定めない。講義において必要な資料等を提示する
参考書 高橋智・加瀬進監修/日本特別ニーズ教育学会編 『現代の特別ニーズ教育』 文理閣 2020年
そのほか参考となる文献・資料等については講義において随時紹介する

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 教育法**担当教員： 葛西 耕介**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 月2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N406

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:42:42 更新者：AD0971

更新日時：2023-02-09 20:14:22

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「教育法」(Education Law)とは、教育制度に関する固有の法である。そして教育法学は、教育に関わって、人格的生存を不可能にする国家権力の介入を禁じ、逆に人格的生存を可能にする国家権力の積極的発動を促す法規範を追究する学問領域である。本授業は、こうした教育法・教育法学を、法学部ではなく、文学部で開講されているという点を意識しつつ、その全体像をつかもうとするものである。

科目目的

本授業は、教育法令の理解とともに、特殊法としての教育法の基本的な論点について、これまでどのような(裁)判例・学説が蓄積され、現在どのような到達点にあるのかを理解することを通じて、教育法的視角から事象を分析できるようになることを目的とする。

到達目標

1. 教育法の基礎概念について、具体的場面とともに説明できる
2. ケースに応じて、問われている基本原理や基本的論点を特定できる
3. 基本的論点について、(裁)判例・学説の到達点を踏まえたうえで、自身の立場を根拠とともに説明できる

授業計画と内容

- 1ガイダンスー教育法の全体像
- 2旭川学力テスト事件最高裁判決(1)概要をつかむ
- 3旭川学力テスト事件最高裁判決(2)精読する
- 4教育法の基本原理(1)子どもの学習権、および(2)子どもの教育を受ける権利と国の学校制度整備義務
- 5教育法の基本原理(3)親や子どもの公教育内容の(一部)拒否権
- 6教育法の基本原理(4)親や子どもの参加権と教師の教育の自由
- 7中間まとめ
- 8自主性擁護的教育法(1)国の教育内容統制権能の限界
- 9自主性擁護的教育法(2)教師の身分の特殊性
- 10条件整備的教育法(1)国の教育制度整備義務と条件整備基準、財政移転制度
- 11条件整備的教育法(2)教育行政の一般行政からの独立
- 12教育は正的教育法(1)校則裁判、体罰裁判
- 13教育は正的教育法(2)いじめ裁判、学校事故裁判
- 14まとめー再び教育法の全体像

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業前には、事前に示された検討事例・(裁)判例、課題文献の準備をすること。
授業後には、コメントペーパーを提出すること。また、参考文献やウェブサイトにあたること。
授業前の準備の方に時間を割いてほしい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	60% 事前に評価基準と、レポートの例を示す。
平常点	40% コメントペーパーの提出。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

コメントペーパーへの応答を行う。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

小グループに分けたうえでのディスカッションをほぼ毎回行う。

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：
特に使用せず、スライド資料等を配布する。
参考文献：
授業内で示すが、さしあたり、以下の文献。
姉崎洋一ほか『ガイドブック 教育法 [改訂版]』(三省堂、2015年)
荒牧重人ほか編『新基本法コンメンタール 教育関係法』(日本評論社、2015年)
葛西耕介『学校運営と父母参加：対抗する《公共性》と学説の展開』(東京大学出版会、2023年)
勝野正章ほか編集『教育小六法 2023年版』(学陽書房、2023年)
兼子仁『教育法(新版)』(有斐閣、1978年)
兼子仁編『教育判例百選(第三版)』(有斐閣、1992年)
日本教育法学会編『コンメンタール教育基本法』(学陽書房、2021年)
日本教育法学会編『現代教育法の争点』(法律文化社、2014年)
堀尾輝久『現代教育の思想と構造』(岩波書店、1971年)
日本教育法学会編『日本教育法学会年報』(有斐閣)各号
『季刊教育法』(エイデル研究所)各巻

オフィスアワー

その他特記事項

学問は、先行する学的営為の蓄積に己の小ささを自覚して、その蓄積に謙虚に耳を傾ける作業である。自身の経験を基礎に「自由」に語られがちな教育学とは異なり、法学にはそうした作法がより一層求められる。受講に際して教育学の深い知識も法学の深い知識も求めないが、特殊法としての教育法を学ぶことは、法学を学ぶ者にとっては「法」の理解を「教育」を媒介にしてより深め、教育学を学ぶ者にとっては「(学校)教育」の理解を「法」を媒介にしてより深めるであろう。

参考URL

https://researchmap.jp/kasai_kosuke/

備考

科目名： 国際比較教育学

担当教員： 島埜内 恵

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 金2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-ED2-N407

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:42:43 更新者： XEC312

更新日時： 2023-01-09 19:03:10

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業の大きな目的は、「教育」、「学校」、「子ども」について考えることです。そしてそのための手法のひとつとして、「比較」を用います。

例えば「日本の学校について説明してください。」と求められたとき、何について、どのように説明するでしょうか。小学校は6年間で中学校は3年間である、授業では教科書を使う、その教科書は自分のものである、時間割は教員が決める、自分で配膳して給食を食べる、掃除の時間がある、集団登校をする、学期の始まりに始業式がある等、説明するための要素がいくつか考えられるかもしれません。

これらは、日本で学校に通い、そこで教育を受けてきた人にとっては「当たり前」のものとして前提とされがちですが、諸外国・地域に目を向けてみると、これらのことは必ずしも「当たり前」とは限りません。このことを踏まえると、日本の「教育」、「学校」、「子ども」にまつわる事象を対象化して考えていくにあたって、諸外国・地域の「教育」、「学校」、「子ども」にまつわる事象を鏡にすることや、その中に日本の状況を位置づけて理解することは、有効な方法のひとつといえます。

本授業では、比較という手法を通して日本の状況や各自の教育経験、学校経験を相対化することで、受講生自身が「教育」、「学校」、「子ども」について考えるための視野を広げ、思考を深めることを目指します。

なお、各回の授業で課題（コメントシートの作成・提出）を課しますので、指定した期日までに作成の上、提出してください。

科目目的

- ①比較や比較教育に関する基本的な知識を学習し、それをもとに日本の状況や各自の教育経験、学校経験を相対化する。
- ②①をもとに、「教育」、「学校」、「子ども」に関するさまざまな事象について、社会の一構成員、あるいは教育に関わる当事者として自分の思考や意見を深めていく。

以上の目的は、文学部のディプロマポリシーの中でも、特に「人を読み解く力」、「複眼的に思考し、多様な社会に柔軟に対応することができる」、「相手の考えを理解することができる」との関連性の中に位置づくものといえます。

到達目標

- ①比較や比較教育に関する基本的な知識を身につけ、それをもとに日本の状況や自分の教育経験、学校経験を相対化できるようになる。
- ②①をもとに、「教育」、「学校」、「子ども」に関するさまざまな事象について、社会の一構成員、あるいは教育に関わる当事者として思考し、適切に表明できるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション（講義の進め方、到達目標、評価等の確認）
比較教育学を学ぶための前提
- 第2回 比較という手法
比較することの意義
比較の限界性
- 第3回 世界の学校類型
学校系統図と義務教育制度
- 第4回 フランスの教育制度や教育政策（1）共和国の理念、「共和国の学校」の「最高の使命」
- 第5回 フランスの教育制度や教育政策（2）教育内容、学校を構成するいくつかの要素
- 第6回 国際機関と日本
「PISA型学力」
「リテラシー」
「コンピテンシー」
- 第7回 PIAAC
TALIS
「教員の働き方」
- 第8回 国家と言語

- 第9回 外国につながる子どもの教育
複言語主義
外国語教育
- 第10回 「オルタナティブな教育」の場
- 第11回 「男女平等」
- 第12回 教育格差
貧困
- 第13回 これまでの学校とこれからの学校
- 第14回 授業のまとめ：比較し、相対化することの重要性

※必要に応じて順番を入れ替える可能性があります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・配布資料等を読み込み、学修事項について振り返ること。
- ・授業内で課題の提出が終わらない場合や授業時間外での課題作成が指示された場合は、指定された期日までに課題を作成の上提出すること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	55%	授業内で扱った知識等も含め、到達目標に達しているかどうかを確認します。
レポート	0%	
平常点	45%	毎回の授業で、原則としてその回のテーマに即した課題(コメントシートの作成・提出)を課します。その課題の提出状況や内容(お題に適切に回答しているかどうか等)を評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

毎回の課題に関する詳細や、受験資格を含めた定期試験の詳細については、初回授業にてお示しします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

回によって、ペアやグループでの意見交換や議論、書いたものの読み合いをしていただく可能性があります。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

課題の提出や関連情報の提示等にかかり、manabaを使用して進める可能性があります。

実務経験のある教員による授業

✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、授業担当者が作成する配布資料をもとに授業を進めます。
参考文献は以下の通りです。これ以外の資料等については、必要に応じて授業内でお示しします。

- ・ 国立教育政策研究所（2014）『教員環境の国際比較』、明石書店。
- ・ ドミニック・グルーほか（2011）『比較教育／比較教育に関する著作の草案と予備的見解』、文教大学出版事業部。
- ・ 二宮皓（2013）『新版 世界の学校—教育制度から日常の学校風景まで』、学事出版。
- ・ マークブレイほか（2011）『比較教育研究—何をどう比較するか—』、上智大学出版。
- ・ 文部科学省『諸外国の教育動向』（各年度版）明石書店。
- ・ ロバート・F. アーノブほか（2014）『21世紀の比較教育学—グローバルとローカルの弁証法—』福村出版。
- ・ 山田 肖子・森下 稔（2013）『比較教育学の地平を拓く』、東信堂。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 教育学特講(1)

担当教員： 岡 健

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 月5

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-ED2-N408

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:42:43 更新者： AB9697

更新日時： 2023-01-09 23:09:32

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

わが国の就学前の子どもへの基本的な「保育」施設である幼稚園・保育所・認定こども園について、制度上の位置づけと特徴を学ぶ。
またわが国の「保育」の基本原則である、「遊びによる教育」、「環境による教育」、「個に相応しい生活の展開（個に応じた指導）」について、映像資料等も活用しながら理解を深める。
加えて、保育園や幼保連携型こども園においては、しなければならない業務として位置付けられている家庭内の「保育」についてもとりあげ、「子育て（の）支援／保護者支援」についても考える。
以上のことを通して、「『保育』とは何か」を考える。

科目目的

就学前の子ども達の「現在」についてトピック的に取り上げながら、就学前子どもたちの育ちを支える制度や仕組み理解すると共に、その実践的な「営み」がどう実施されているのかを、ワーク等も経験しながら理解を深める。

到達目標

受講者は、就学前の子ども達の特徴（環境に圍繞されざるを得ない存在としての「子ども」・「育つ」当事者としての「子ども」）を理解し、育ちを支える制度や仕組みの役割を理解できるようになる。また、その具体的な営みとしての保育実践について知り、自分が子どもたちをどのように支援することができるのか、考えを深められるようになることを到達目標とする。

授業計画と内容

- 第1回 インTRODクシヨン—この授業で何を学ぶのか
- 第2回 知的早期教育が提起する「子ども」問題①／「学ぶ」ことは「教える」ことか？
- 第3回 知的早期教育が提起する「子ども」問題②／保護者にとっての「子ども」とは
- 第4回 わが国の保育の基本原則／「遊び」による教育・「環境」による教育・個に応じた指導
- 第5回 「学級崩壊」や「キレる子ども」問題が提起した「子ども」問題①
- 第6回 「学級崩壊」や「キレる子ども」問題が提起した「子ども」問題②
／「子ども理解」と教育における「支配性」
- 第7回 「主体性」（等の「非認知的能力」）を育む／「子ども理解」と「支援」・「指導」の概念関係
- 第8回 「子ども理解」と「省察」
- 第9回 「子ども理解」の手法を学ぶ①／「事実」を多様・多角的に拾う
- 第11回 「子ども理解」の手法を学ぶ②／「写真」という道具の有効性
- 第12回 保育の実践の「構想」について学ぶ①／保育において「ねらい」を立てるということ
- 第13回 保育の実践の「構想」について学ぶ②／保育において「手だて」を考えるということ
- 第14回 まとめ—「保育」とは何か

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業では、授業時にVTR等の視覚的教材や授業記録・保育記録等のドキュメントを用いて「子ども理解」や「保育（実践）」を巡る課題等をトピックとして取り上げ進める場合もあれば、いわゆる反転授業等を想定して、授業で扱う上記資料等（文献や新聞記事等を含む）について読み込み、課題を作成の上授業に臨むことが求められる場合もある。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	40%	講義内容を理解したうえで、それを基に自分の考えを理論的に表現できているのかを評価します。
レポート	50%	基本的に毎回の講義後に課すレポートで、講義内容を理解して課題を把握したうえで、レポートの体裁で自分の考えを表現できているかを評価します。
平常点	10%	講義への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL (課題解決型学習)
- ✓ 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しません。各回に必要なレジュメや資料を配付します。参考文献は適宜紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：教育学特講(2)**担当教員：森 一平**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：金2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N409

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:42:43 更新者：AD0676

更新日時：2023-01-08 16:47:48

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

近代社会において教育の中心は学校教育にあり、学校教育の中心は「授業」にある。したがって授業について知り、また改善していくことは、教育について知り、改善していくことと通底する。そしてその営みの中心はなんといっても、日本の優れた教師文化たる「授業研究」に存する。そしてまた授業研究は「人びとの実践の研究」に他ならないから、授業研究のありようを理解することは、私たちの身の回りにある様々な日常実践を理解し、改善することとも根本的な部分でつながっている。

そこで本科目では「授業研究」をテーマとして取り上げ、大きく2つのパートによって講義を構成する。まず、①著名な授業研究の方法のいくつかを、それらをめぐる論争史にそくして複数取り上げることにより、授業研究のバリエーションを把握するとともに「授業を見て何事かコメントする」というだけの授業研究観を上書きし、「実践研究」の深みを知ってもらう。そのうえで次に、②エスノメソドロジー・会話分析という社会学上の立場から授業を観察してみることを通し、授業というコミュニケーションの構造を把握するとともに、授業という限られた実践のみならず様々な領域のコミュニケーションを分析的に観察する能力の基礎を養うことをめざす。

科目目的

日本の教員／教育学文化の「遺産」たる授業研究の中心に位置づくような立場を複数理解することを通して、日本の教育のありようの重要な一側面を知り、またエスノメソドロジー・会話分析の立場からの授業研究を体験的に学修することで、広くコミュニケーション現象一般の分析能力を養うことを目指します。

到達目標

- ① 授業研究をめぐる複数の立場について、その概要・意義・限界をそれぞれ説明できる。
- ② ①を踏まえたうえで、エスノメソドロジー・会話分析という立場からの授業研究の特殊性と意義を説明できる。
- ③ エスノメソドロジー・会話分析の立場から、授業のコミュニケーション構造を読み解くことができる。

授業計画と内容

- 第1回オリエンテーション：授業研究の全体像
- 第2回斎藤喜博と島小の授業研究
- 第3回出口論争(1)：「ゆさぶり」と「正しさ」
- 第4回出口論争(2)：「名人芸」と「法則化」
- 第5回ビデオを用いた授業研究(1)：授業カンファレンス
- 第6回ビデオを用いた授業研究(2)：ストップモーション方式
- 第7回コミュニケーションとしての授業(1)：エスノメソドロジー・会話分析の視点
- 第8回コミュニケーションとしての授業(2)：発言の順番交替組織について
- 第9回作業課題(1)：発言の順番交替の視点から授業を読み解く
- 第10回コミュニケーションとしての授業(3)：行為連鎖の組織について
- 第11回作業課題(2)：行為連鎖の視点から授業を読み解く
- 第12回コミュニケーションとしての授業(4)：トラブルの修復・誤りの訂正の組織について
- 第13回作業課題(3)：修復・訂正の視点から授業を読み解く
- 第14回おわりに：本講義における学習内容の振り返りとその応用可能性について

(注：上記計画は、受講者の学習状況や問題関心に応じて変更することがあります。)

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・ 毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	実際の授業事例の分析レポートを最終課題として課し、講義の理解度や分析の妥当性といった観点で評価します。
平常点	50%	毎回の講義を踏まえて取り組んでもらう課題の合計得点に基づき評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

必要に応じ、manabaのコンテンツ機能やレポート、テスト機能などを使用します。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは特に指定しない。毎回の講義でレジュメや資料を配布し、また参考文献を提示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：教育学特講(3)**担当教員：井上 慧真**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：金1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N410

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:42:43 更新者：AD1168

更新日時：2023-01-10 22:38:38

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この講義では、現代社会における教育に関する様々な問題を取り上げながら、教育学および教育社会学の基本的な概念や理論、研究について理解を深める。そして教育に関する現象について、様々な視点から理解を深める。子どもは大人になるまでに様々な発達段階を経るが、この講義ではとくに青年期から成人期の初期の発達における教育、そしてそれに関わる様々な問題に焦点化して考える。具体的には、授業の前半は青年期から成人期の初期における学校教育（特に高校教育、大学教育問題）の問題、授業の後半は青年期から成人期における家庭や仕事での役割の変化を、若者がどのように経験するかの問題について考える。

科目目的

教育に関する様々な問題を考察するのに必要となる教育学および教育社会学の基本的な概念や理論、研究について理解すること。発達に関する教育学、教育社会学の理論、これまでの研究を把握し、特に青年期から成人期の初期にかけて現代社会に生きる人々が経験する様々な問題についての理解を深めること。

到達目標

様々な教育問題について、自分自身の経験や自分の周囲の人々の経験に照らしながら、さらにより広い社会の問題として考えられるようになること。また、そのために必要な教育学・教育社会学の概念、研究方法、これまでの研究についての理解を深めること。

授業計画と内容

- 第1講オリエンテーションー発達段階についての基礎知識、青年期から成人期への移行という視点
- 第2講学校教育①はじめはなぜ問題となるのか
- 第3講学校教育②学校における体罰
- 第4講学校教育③校則をめぐる近年の状況
- 第5講学校教育④不登校をめぐる近年の状況
- 第6講学校教育⑤高校からの中退と学び直しの環境
- 第7講学校教育⑥「誰もが高校に通える社会」の成立
- 第8講雇用①アルバイトをめぐる問題
- 第9講雇用②就職活動をめぐる問題
- 第10講雇用③日本的雇用と学生のキャリア展望
- 第11講雇用④日本的雇用と女性
- 第12講家族①移行期の親子関係
- 第13講家族②移行期の家族形成
- 第14講家族③移行期の社会参加
- 第15講まとめー現代日本の青年期から成人期への移行 学校教育・雇用・家族から

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業内容についての小テストに取り組むこと。また授業ごとに提示する参考文献を、個人の関心に応じて読み、期末レポートの作成に役立てること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 期末レポートの提出
平常点	50% 各授業後の確認テストの受験
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

各授業毎の小テスト：翌週解説を行う。
期末レポート：授業内で、作成のためのポイントを提示する。また希望者にはmanabaにてフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

講義中に、講義内容について、提示するデータや資料の内容を中心に質問を行い、提示するデータや資料の理解を深める一助とする。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。毎講講義資料をpdfにて配布する。
参考文献については、各講の講義資料において指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：教育学特講(4)**担当教員：堀川 修平**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：月2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N411

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:42:43 更新者：XEC313

更新日時：2023-01-07 15:20:06

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

私たちの身のまわりに存在しているジェンダー／セクシュアリティ問題について、じぶんごととして捉えることができる力、そしてそれらを解決するための力を養っていただきます。そのために、私たちを「種としてのヒトから人間としてのひと」へと育て養う「教育」(必ずしも、学校教育だけが教育ではありません)の可能性に着目しながら学びを深めていきたいと思えます。

【授業の概要】

1. ジェンダー／セクシュアリティといった〈性〉に関わる差別問題を反省的にとらえる契機を与え、省察的な意見をもてる内容とします。
2. 性の多様性、「らしさ」の強要、LGBT市場といった現代的諸課題について、具体的ケースを示しながら検討をしていただきます。
3. 本授業担当教員の専門性である「教育(人間形成)とジェンダー・セクシュアリティ」という観点から授業を深めます。
4. 本授業は原則、個人ワーク・グループディスカッションを積極的に取り入れます。単に受動的に知識を吸収し、座っていればよい「座学」ではありません。
5. 積極的に教員と学生、学生同士での交流を行いますので、人権保障に関する意識のない学生には受講を控えていただきたいと思えます。

科目目的

この科目は、ジェンダー・セクシュアリティの観点から人間の多様性についての学識と思考力を修得することを目的としています。

到達目標

本授業の到達目標は以下の3点です。

- ・ジェンダー平等とは何かを歴史的な観点から理解することができる。
- ・ジェンダー平等実現のための教育の課題について理解し、学校におけるジェンダー平等の課題について考えることができる。
- ・ジェンダー／セクシュアリティに関する差別問題が身のまわりに存在することを理解できるよう、日常的な関心を形成し、意見を述べるようになる。

授業計画と内容

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：性に関する「あたりまえ」を問い直そう！ (1) 道具としてのジェンダー平等の視点を身につけよう！
- 第3回：性に関する「あたりまえ」を問い直そう！ (2) 性の多様性ってなんだろう？
- 第4回：性に関する「あたりまえ」を問い直そう！ (3) 「特権」について考える：知らぬ間に履いていた「高下駄」を脱ぐために
- 第5回：グループディスカッション①
- 第6回：教育とジェンダー／セクシュアリティ (1) 映像教材とジェンダー・セクシュアリティ：ジェンダー形成はどこから？
- 第7回：教育とジェンダー／セクシュアリティ (2) 「教育」と「教化」と「形成」の違いとは？
- 第8回：グループディスカッション②
- 第9回：良好な関係性を築くために (1) 暴力って何だろう？
- 第10回：良好な関係性を築くために (2) 主体性を奪う構造的暴力：「私は差別に関係ありません」の落とし穴
- 第11回：包括的性教育・クィアペダゴジーのススメ (1) 主体性を育む「性教育」にするために
- 第12回：包括的性教育・クィアペダゴジーのススメ (2) 「七生養護学校性教育バッシング」とジェンダーバックラッシュ：国により管理される性、介入される教育現場
- 第13回：包括的性教育・クィアペダゴジーのススメ (3) クィアペダゴジーを実践してみよう！
- 第14回：まとめ：あらためて「あたりまえ」を問い直す

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	40%	ジェンダー・セクシュアリティ・性教育についての学識を修得したかどうか、日本の性教育やジェンダー平等に関する課題を説明できるかどうか、を評価します。
レポート	60%	毎授業後に提出する「学びと感想」を評価します。
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席率が70%に満たない者についてはE判定とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL（課題解決型学習）
- ✓ 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- ✓ タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

堀川修平『気づく 立ちあがる 育てる ―日本の性教育史におけるクィアペダゴジー』（エイデル研究所、2022）を第6回授業までに準備しておいてください。
上記テキストの他、レジュメや補足資料等をネット上で配布します。各自持参ならびに管理をし、授業の際や、レポート作成に用いて下さい。

オフィスアワー

その他特記事項

この授業では「ジェンダー・セクシュアリティ平等の視点」を“社会におけるすべての人の（性）に関する抑圧の解放を目指すために、性の多様性を認め、性の差別や偏見から自由になること”と定義して、現代社会における「差別」問題について考えていきます。

その際、皆さんに「じぶんごと」としてこれらの問題を捉えてもらいたいと思います。ですので、「自説のみにこだわり、周

りの人たちと対話するつもりのない方」「この社会のあらゆる差別に関して敏感に捉えるつもりのない方」「授業内でのあらゆる課題に取り組むつもりのない方」「小難しい知識を暗記することのみに力を注ぎたい方」などもいらっしゃると思いますが、そのような自分をこの授業を通して変えるつもりのない方は、別の授業の受講やご自身の趣味の時間に使った方が有意義だと思います。本授業の受講を取りやめることを検討してください。また、積極的に教員と学生、学生同士の交流をしていただきますので、他の受講生の学習権の侵害がないように積極的に参加していただきたいと思います。

参考URL

<https://researchmap.jp/horikawa-shuheii>

備考
